

東京都中央区日本橋浜町三丁目 21 番 1 号
株式会社建設技術研究所
代表取締役社長執行役員 西村 達也
(コード番号 9621 東証プライム)
問合先 取締役常務執行役員管理本部長 松岡利一
電話 03-3668-4125

株式会社建設技術研究所
第 62 期(2024 年)第 2 四半期決算説明会 書き起こし

説明会開催日時：2024 年 8 月 20 日（火）10:00～11:20

代表取締役社長執行役員 西村達也（以下「西村」）：

皆さんおはようございます。

本日は会場にお集まりいただき、またオンラインで参加していただき大変ありがとうございます。

代表取締役社長の西村でございます。

本日は第 62 期第 2 四半期の決算についてのご報告でございます。

第 2 四半期の決算は既に公表させていただいた通り、増収減益となりました。

また、第 62 期第 1 四半期は予想を大きく上回ったということから、第 62 期の期末予想を上方修正させて公表させていただきます。

詳細は後ほどご説明させていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

西村：

それでは第 2 四半期の決算報告についてご説明いたします。

本日の説明内容はここに記載した通り、第 2 四半期の決算報告、そして期末予想、そして三つ目としまして、期末に向けた課題の進捗状況と今後の対応についてでございます。

第62期 第2四半期決算ハイライト（連結）



上半期受注高・売上高・営業利益は、ともに上半期の実績が予想を上回った
下半期は、例年どおりの進捗が想定されるため、上半期の好業績を踏まえ、今回通期計画の上方修正を発表

受注高	売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 中間純利益
54,545 百万円	50,746 百万円	6,789 百万円	4,883 百万円
前年同期 58,923 百万円 増減率 ▲7.4%	前年同期 47,623 百万円 増減率 +6.6%	前年同期 7,166 百万円 増減率 ▲5.3%	前年同期 5,289 百万円 増減率 ▲7.7%

受注高	上半期は当初計画を上回る進捗。 下半期についても当初方針のとおり、生産体制を確認しながら技術者の労働負荷を考慮した業務受注を行う。
売上高	上半期全体では第1四半期での想定以上の進捗を受け、前年同期を上回る売上高を達成。 特に、流域・国土事業部門の業務が想定より進捗。
営業利益	第1四半期に高収益かつ大型案件が予想以上に進捗したことにより、上半期全体では予想を上回る。

西村：

最初に第2四半期の決算報告についてご説明いたします。

これは第2四半期の決算のハイライトでございます。

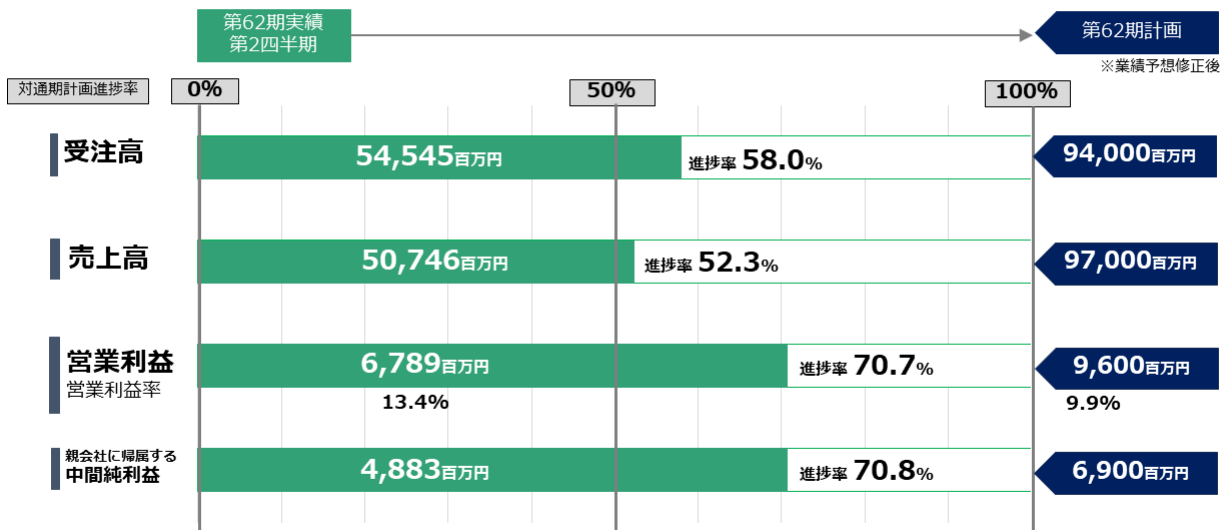
数字は記載した通り、受注、売上高、営業利益、そして純利益ということで、売上高は前期を上回りましたが、受注と営業利益は前期より若干下回ったということでございます。

先ほど冒頭の挨拶でご説明した通り、上半期の業績につきましては予想を上回ったということから、後ほどご説明しますが、期末の通期予想も上方修正して発表させていただきました。

第62期 第2四半期決算ハイライト（対計画進捗率）



営業利益・親会社に帰属する中間純利益は修正計画の7割を確保
下半期は、海外の景気動向、為替レートが不確実であるが、前期程度の進捗を想定



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

5

西村：

続いて、これは計画に対する進捗率を示したものでございます。

右側の第62期計画、これは先ほどご報告しました通り修正した後の数値を記載しております。

受注高、それから売上高は50数%、営業利益は70%を上回る進捗率ということになっております。

損益計算書概要（連結）



（単位：百万円）

項 目	第61期 (2023年) 2Q	第62期（2024年）2Q			第62期（2024年） 修正計画	
			増減額	前年同期比		対計画進捗率
受注高	58,923	54,545	▲4,378	▲7.4%	94,000	58.0%
売上高	47,623	50,746	+3,122	+6.6%	97,000	52.3%
営業利益	7,166	6,789	▲376	▲5.3%	9,600	70.7%
営業利益率	15.0%	13.4%	-	▲1.7pt	9.9%	-
経常利益	7,287	6,853	▲434	▲6.0%	9,700	70.7%
親会社に帰属する 中間純利益	5,286	4,883	▲405	▲7.7%	6,900	70.8%

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

6

西村：

続いて、これは連結の損益計算書の概要でございます。

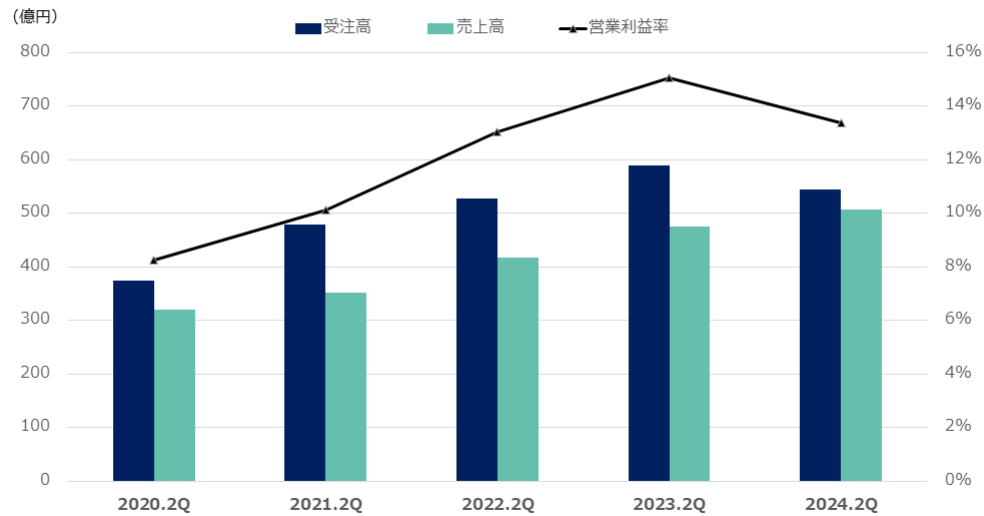
受注高は 545 億円、売上高は 507 億円、営業利益は 67.9 億円、営業利益率は 13.4%、経常利益は 68.5 億円、中間純利益は 48.8 億円ということでございます。

先ほどご説明した通り、売上高だけが前期を上回っており、あとは前期より若干下回っているという状況でございます。

（参考）上半期の受注高・売上高・営業利益率推移（連結）



受注高は、複数年契約の大型業務の減少、労働負荷軽減などから、前年同期よりも若干減少
 売上高は、第1四半期での予想以上の進捗により、前年同期を上回る
 営業利益率は、人員拡充、賃上げ、物価上昇等により、前年同期を下回る



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

7

西村：

この図は過去5年間の第2四半期での業績の推移を示したものでございます。

今期の2024年の第2四半期は2023年に比べますと、受注高および営業利益は若干下回っておりますが、その前の年の2022年に比べると上回っているというような状況になっております。

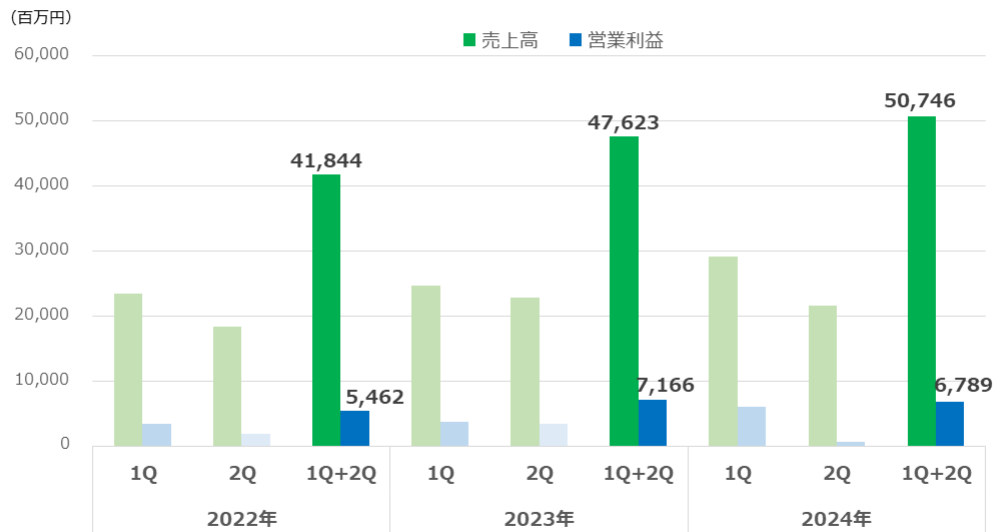
2023年は非常に好調だったということかなというふうに思っております。

営業利益率の減少につきましては、人員の拡充それから賃上げ、物価上昇による影響ということでございます。

（参考）上半期の売上高・営業利益推移（連結）



当グループが行うコンサルタント業務は公共事業が多く、業務の進捗が年度末に集中することから、売上高及び営業利益は、第1四半期（2022年の収益認識基準適用以降）に偏り、第2四半期は減少する傾向にある



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

西村：

この図につきましては、第1四半期と第2四半期の売上高、営業利益の推移を過去3年間示したものでございます。

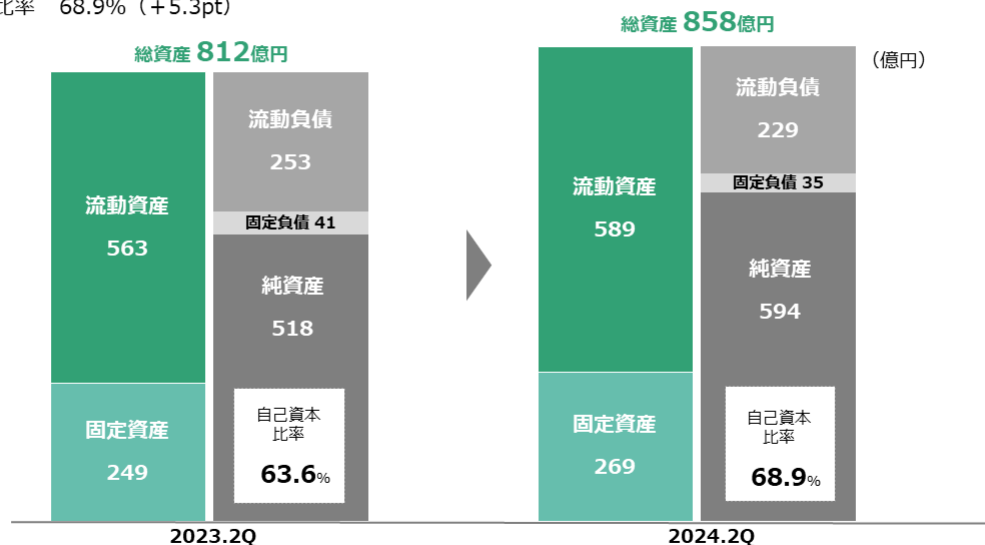
当社は第2四半期にかなり売り上げ、それから営業利益を出して第2四半期は若干第1四半期に比べると下がるという傾向にございます。

特に今期の第2四半期の営業利益が下がったのは、人件費の増加等に伴って販管費が多かったこと、それから完成原価率が若干高かったというようところが要因ということでございます。

貸借対照表（連結）



- ・資産は、売上債権増加（+57億円）等により、46億円増加
- ・負債は、契約負債減少（▲42億円）等により、29億円減少
- ・自己資本比率 68.9%（+5.3pt）



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

西村：

これは連結貸借対照表になります。

総資産は 858 億円ということで前期と比べると 46 億円増加ということになります。

負債につきましては、流動負債それから固定負債を合わせますと 264 億円ということで前期より 29 億円減少ということになります。

自己資本比率は 68.9%ということで前期に比べてプラス 5.3 ポイント上昇ということになります。

セグメント情報：国内建設コンサルティング事業



■受注高は当初方針を踏まえ計画どおりに進捗

- ・受注高は、当初計画を上回る進捗（計画に対し61.0%の進捗）
- ・下半期は、技術者の労働負荷を考慮しつつ、業務受注していく予定
- ・売上高は、計画に対し53.8%、営業利益は計画に対し74.6%の進捗

（百万円）

項 目	第61期 (2023年) 2Q	第62期（2024年）2Q			第62期（2024年） 修正計画	
			増減額	前年同期比		対計画進捗率
受注高	40,625	38,123	▲2,502	▲6.2%	62,500	61.0%
売上高	34,113	35,493	+1,379	+4.0%	66,000	53.8%
営業利益	6,800	6,494	▲305	▲4.5%	8,700	74.6%
営業利益率	19.9%	18.3%	-	▲1.6pt	13.2%	-

西村：

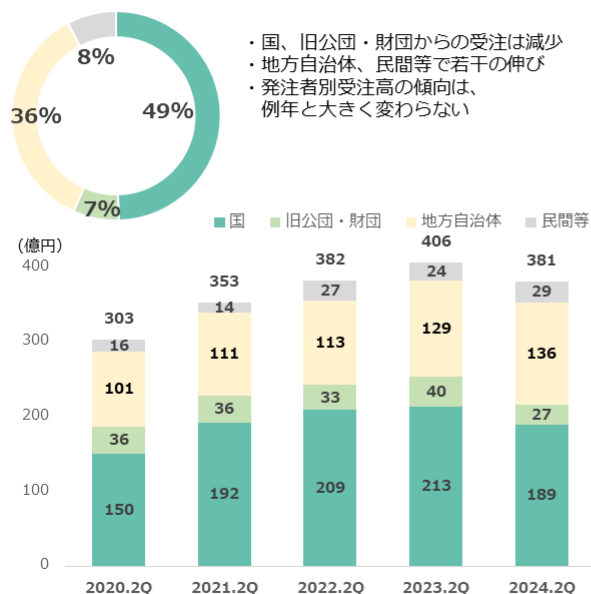
続いてセグメント別になります。

まず国内の建設コンサルタント事業でございますが、ここに記載した通り、受注高は 381 億円、売上高が 355 億円、営業利益は 64.9 億円、営業利益率は 18.3%ということで、先ほどからご説明した通り、売上高だけが前期を上回るという形になっております。

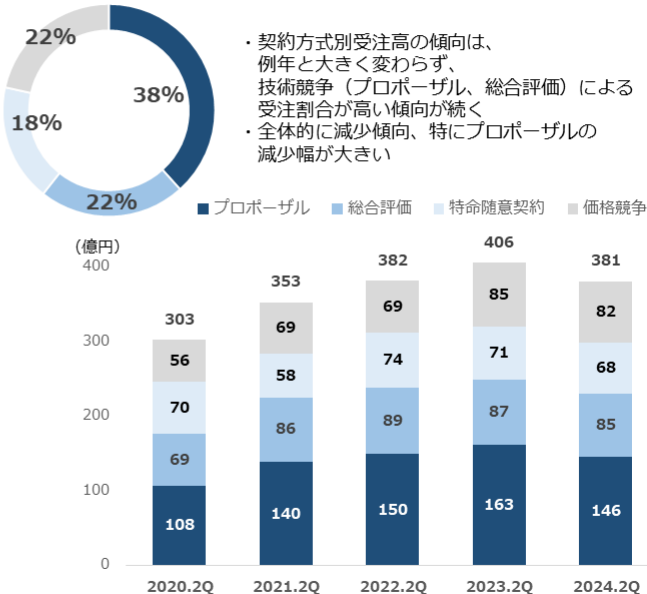
国内建設コンサルティング事業 受注高の状況



■発注者別受注高



■契約方式別受注高



西村：

続いてこの図は国内建設コンサルタント事業の発注者別の受注高と契約方式別の受注高になります。

左側の発注者別の数字を見ていただくと今期 2024 年につきましては、国交省それから旧公団財団が若干減少し、地方自治体や民間については若干の伸びとになっております。

契約方式別の受注高につきましては右側の図の通りでございまして、全体的に受注が前期に比べると少なかったせいもございまして、全体的に若干減少というような形になっております。

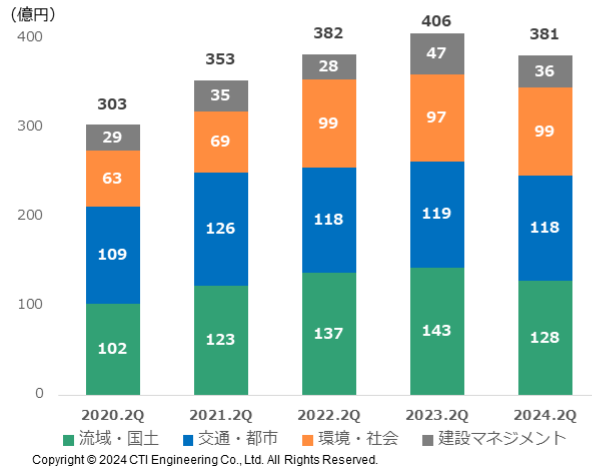
両方とも大体比率的には、例えば発注者別の受注高の比率については、大体同じような形で、契約方式別の実績の割合についてもそれぞれ同じような形で、特に技術提案を得意とします当社としましてはプロポーザル、それから総合評価の割合は大体 6 割を維持しているというような形になっております。

国内建設コンサルティング事業 受注高の状況



■事業部門別受注高

- ・事業部門別受注高の傾向は、例年と大きく変わらない
※2023年期末実績：
- ・流域・国土36%、交通・都市31%、環境・社会25%、建設M8%
- ・流域・国土と建設マネジメント事業部門の減少幅が大きい



流域・国土 事業部門

34%

河川・海岸/ダム/砂防/
上下水道/機電設備

受注高 12,792百万円
前年同期比 ▲10.5%

交通・都市 事業部門

31%

道路・交通/都市・建築

受注高 11,807百万円
前年同期比 ▲1.2%

環境・社会 事業部門

26%

情報・電気/防災/環境/地質

受注高 9,955百万円
前年同期比 +3.0%

建設 マネジメント 事業部門

9%

公共調達支援/CM・施工管理

受注高 3,568百万円
前年同期比 ▲24.2%

西村：

続いて国内建設コンサルタント事業の事業部門別の受注高になります。

左側の図を見ていただきますと、流域・国土が若干減少になっています。

この要因は河川事業の受注が遅れていることにより若干減少しています。それから交通・都市および環境・社会についてはほぼ同じか若干増加しています。

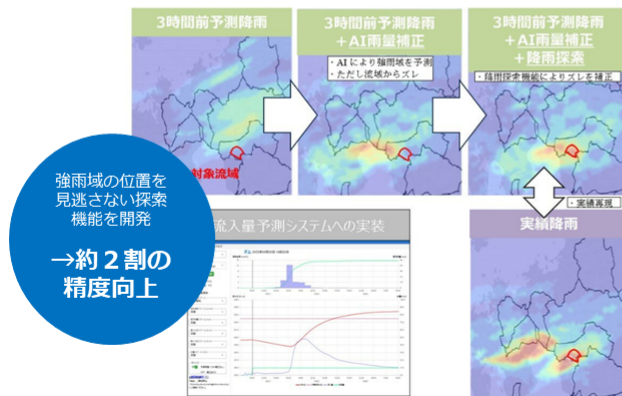
建設マネジメントは昨年複数年の業務があった関係で若干前期よりは少なくなっております。

■ AIモデル・ゲームエンジンを用いた洪水リスク予測DX技術の開発

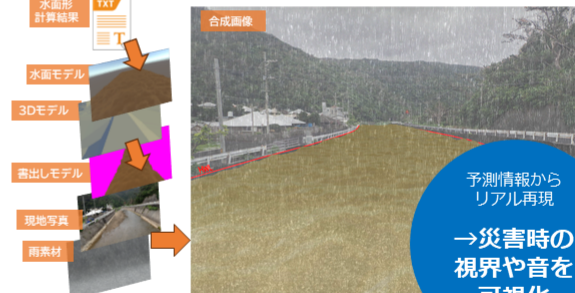
～洪水予測に関するDX技術を用いて、中小河川流域の水防災へさらなる貢献を目指す～

流域面積の小さい河川・ダムを対象に、降雨予測情報取得の低コスト化、洪水予測の高度化および洪水時の住民の逃げ遅れゼロを目的に、「WEB気象情報から予測雨量データ取得」「AIモデルによる予測レーダ雨量の補正と強雨域探査機能」「ゲームエンジンを用いた洪水可視化技術」を開発。

・ AIモデルによる予測レーダ雨量の補正と強雨域探査機能



・ ゲームエンジンを用いた洪水可視化技術



本技術の効果

- ・ AIモデル・ゲームエンジンを用いた安価な洪水リスクの予測
 - ・ 災害時の視界や音をイメージできるよう可視化
- 水防災対策の迅速化と防災行動の自分事化を目指す

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

13

西村：

ここから国内建設コンサルティング事業のトピックスについて四つほど紹介させていただきます。

この図はAI モデル、それからゲームエンジンを用いた洪水リスク予測 DX 技術の開発ということになります。

左側の図をご覧ください。

特に流域面積の小さい河川やダム等につきましては、どこでかなり集中的に雨が降るかというところの予測の影響をかなり大きく受けます。

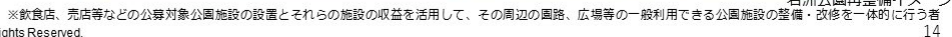
実際、その予測を追う3時間前の予測データですと若干ずれたりしますので、それをAI モデルを使って補正するというを行おうというものでございます。

これを補正することによって約2割の精度向上を達成することができたというような形のシステムでございます。

右側の図はゲームエンジンを用いた洪水可視化技術ということでございまして、水面のモデル、それから地形の3次元モデル、そして現地の写真、それから雨が降っている素材の例などを合成画像として作成し、臨場感あふれる形で洪水が発生している状況をしっかり皆さんにご提示することができるということになります。

こういうことをすることによって精度が上がって、水防対策の迅速化とか防災行動の自分事化に繋げていけるのではないかとということで開発したものでございます。

公募設置管理制度（Park-PFI）を活用した官民連携事業による再整備事業に、当社を代表企業とするグループが設置等予定者※に選定



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved

14

この事業では、当社を代表とするグループが設置予定者として選定され、今進めているところでございます。

■地下水における細菌のDNA情報を用いた水質分類手法

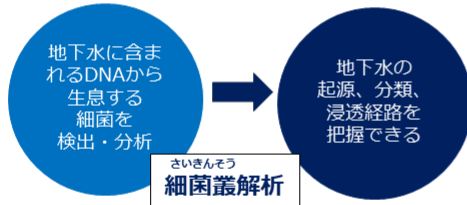
・従来、地下水の流れを調べる際、一般的手法であるイオン分析では…

※環境DNAの詳細はAppendix参照

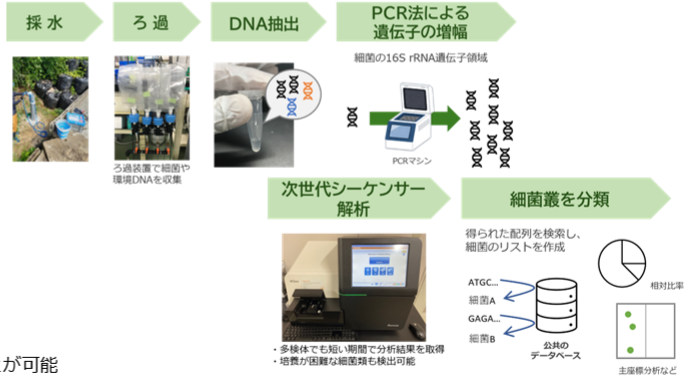


同じ地質や隣接流域では水質の違いが不明瞭となり、地下水の流れを考察することが困難

・今回開発したDNA情報を用いた水質分類手法により



・細菌叢解析の流れ



本技術の効果

- ・地下水に含まれる環境DNAを網羅的に分析することが可能
 - ・従来手法とは異なる有機物由来の情報が得られることにより、水質分類の精度向上
- 建設工事等による地下水影響評価や汚染源特定を高精度で実施（効果的な地下水汚染対策を提案）

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

15

西村：

三つ目は地下水における細菌のDNA情報を用いた水質分類手法ということです。

これまでのイオン分析による手法では、同じ施設とか隣接流域での水質の違いが不明瞭ということでどこから水質汚濁等が発生しているかを調べることは難しいということがありました。

今回は地下水に含まれるDNAから細菌を件数分析して、細菌叢解析というものを使って地下水の起源、それから分類、浸透経路を把握できるようになっていくということでございます。

細菌解析の流れは右の図に示した通りでございます。

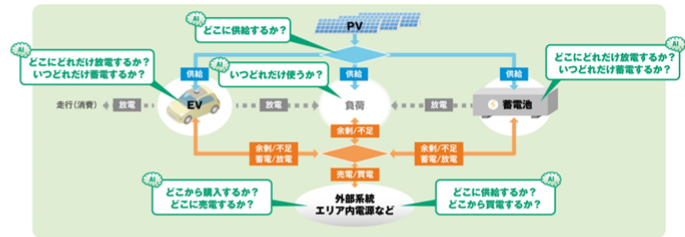
これを行うことによって建設工事等による地下水影響評価、それから汚染源の特定を高精度で実施することができて、より効果的な地下水汚染対策を提案することができるだろうというふうに思っております。

■ AIを用いた予測制御型エネルギーマネジメントシステムの開発

～電力需給管理によるコスト最適化とCO2排出量削減の実現により、脱炭素社会の構築に貢献

・本システムの特徴

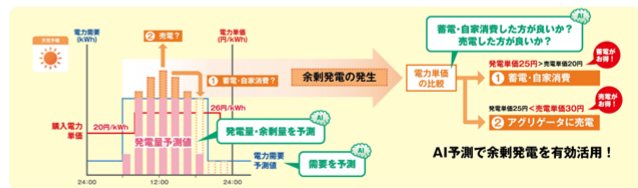
- ① 高い精度での発電量および電力消費量の予測
AI技術により、従来は経験則や実績値に頼っていた発電量・電力消費量の予測を高精度で行うことが可能に。
- ② 需給マネジメントによる需要家メリットの最大化
変動する卸電力市場価格に適応した電力の売買判定フローを含めた最適な需給管理を実現。



AI予測制御型エネルギーマネジメントシステムの概要

本技術
の
効果

- ・ビルオーナーなどの需要家が的確な電力の需給管理を行うことが可能に
- コストの最適化とCO2排出量削減を実現



AI予測制御型エネルギーマネジメントシステムによるコスト最適化

西村：

続いて四つ目でございます。

これは AI を用いた予測制御型エネルギーマネジメントシステムの開発ということでございます。

これまで経験則、それから実績に頼って発電量、それから電力の消費量、こういうのを予測するということをしていましたが、AI を使ってその予測精度を高精度で行っていかうということ、右の図に示した通り、例えば太陽光発電で発電した電気をどこに供給していけばいいか、余った分については右側の蓄電池に貯めるとかというようなことをして、あと今後の予測も踏まえてどういうふうに提供していったら効果的に良い際、コストの最適化と称する排出量の削減を実現できると、そういうことを可能にしようというシステムを開発したものでございます。

セグメント情報：海外建設コンサルティング事業



■受注高・売上高・営業利益は計画通り進捗

・受注高は計画に対し52.1%、売上高は計画に対し49.2%、営業利益は計画に対し33.0%の進捗

(単位：百万円)

項 目	第62期 (2023年) 2Q	第62期 (2024年) 2Q			第62期 (2024年) 修正計画	
			増減額	前年同期比		対計画進捗率
受注高	18,297	16,421	▲1,876	▲10.3% (▲22.0%)	31,500	52.1%
売上高	13,510	15,253	+1,742	+12.9% (+0.1%)	31,000	49.2%
営業利益	377	296	▲80	▲21.4%	900	33.0%
営業利益率	2.8%	1.9%	-	▲0.9pt	2.9%	-

※受注高には、海外子会社の期末受注残高を為替評価した増減額を含んでおります。

増減率のカッコ内には、海外子会社の為替評価による増減額を除いた増減率を記載しております。

西村：

続いて海外建設コンサルタント事業についての第2四半期の成果になります。

受注高は164億円、売上高は152.5億円、営業利益は約3億円、営業利益率は1.9%ということで、国内と同様、売上高が前年同期を上回り、営業利益は若干下回ったというような形でございます。

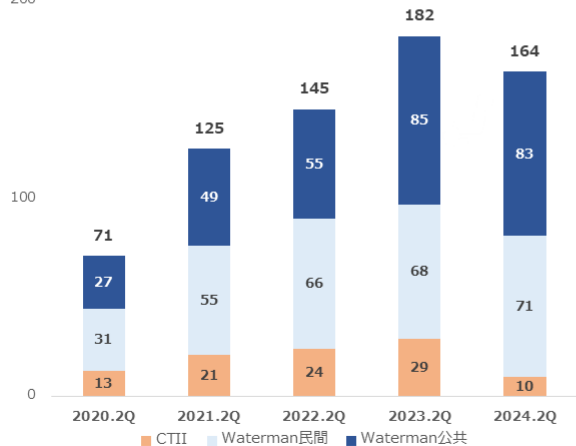
海外建設コンサルティング事業 受注高の状況



- ・ Watermanの受注は、民間・公共ともに計画どおりに進捗。
英国・オーストラリアの景気回復の遅れに伴い、下半期の受注は厳しくなることが予想される。
- ・ CTIインターナショナルは、フィリピンの大型案件受注獲得の遅れ等が発生。

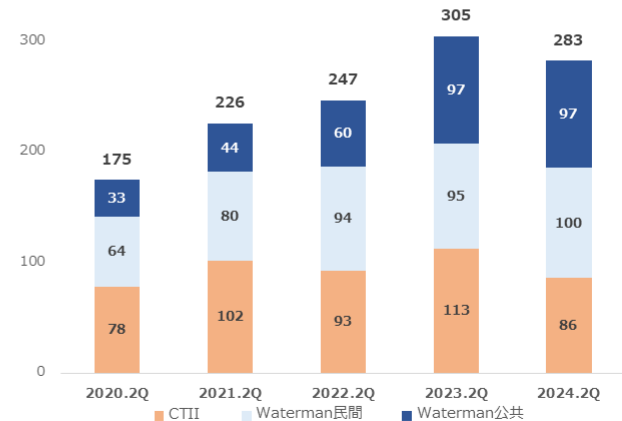
■ 受注高推移

(億円)
200



■ 受注残推移

(億円)



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

18

西村：

これは海外建設コンサルティング事業の受注高の推移になります。

左側の図を見ていただくと、青と水色が Waterman の公共と民間になります。

これにつきましては、ほぼ前期並みの受注高になっております。

一番下の建設技研インターナショナルが前期より若干下回っております。

これはフィリピンでの大型案件の獲得の遅れというのがありまして、それが下期に回っているということで、上半期は受注が減少ということになっております。

特に海外につきましては、特に英国やオーストラリアの景気回復遅れというのがございますので、下半期の受注はこの辺がやや厳しくなるかなというふうに思っておりますが、受注残の方は右側の図の通りでございますので、売り上げにつきましては、特に心配はしていないというような状況でございます。

建設技研インターナショナル(CTII)の業務紹介

■業務名称：重要流域治水対策強化プロジェクト(パシグ・マリキナ川流域)
重要流域治水対策強化プロジェクト(カガヤン川流域)

■国・地域：フィリピン国・ルソン島

■業務概要：

- ・フィリピンの「重要流域治水対策強化プロジェクト」は、フィリピンの主要河川流域における洪水リスク低減、持続可能な治水対策の強化を目的とした、JICA（国際協力機構）とフィリピン政府が協力して進めているプロジェクト
- ・2024年4月、CTIIはパシグ・マリキナ川流域、カガヤン川流域を対象とした治水対策強化プロジェクト2業務を受注
- ・両河川流域は、台風による洪水氾濫被害が多発する地域で、2020年台風ユリシーズなどにおいても甚大な被害を受けた
- ・本プロジェクトを通じて、治水安全度の早期向上に向け、河川・氾濫特性等を考慮した各種洪水対策の提案等を行う



カガヤン川：ルソン島北部に位置し、フィリピン最長かつ最大の流域面積(27,300km²)を持つ



パシグ・マリキナ川：フィリピン最大都市マニラ首都圏を流下する(714km²)

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

19

西村：

海外事業のトピックスを二つだけご紹介いたします。

まず建設技研インターナショナルの業務の紹介です。

これはフィリピンのルソン島のパシグ・マリキナ川等を対象としたカガヤン川の重要流域水対策強化プロジェクトについてでございます。

この流域対策治水対策強化プロジェクト、これは JICA とフィリピン政府が進めているプロジェクトということで、特に今回の二つの流域につきましては、台風等による洪水被害が多発する地域ということでございまして、本プロジェクトを通じて、治水安全度の早期向上に向け、河川氾濫特性を考慮した各種治水、洪水対策の提案を行っていくという業務でございます。

Waterman Group Plcの業務紹介

- 業務名称：炭素排出量を削減する複合施設 Hill Houseの改築計画
- 国・地域：イギリス国・ロンドン
- 業務内容：

- ・ ロンドン市内の複合施設 Hill Houseを新たなランドマークとなる「ビルを流れ落ちる垂直な都会の森」をもったテラス付き20階建ての“低炭素”複合ビルに改築するプロジェクト
- ・ 1970年代に建設されたコンクリート造りのビルで、改築後にはオフィス、小売店、テラス、レストラン、文化イベントスペース等を備えた延床面積約35,000㎡のスペースを提供
- ・ Waterman Group Plcは、低炭素化スキーム、構造設計、土木設計などに対する多面的なサポートを実施
- ・ 特にサステナビリティチームは、解体前の調査で再利用が可能な主要資材を特定し、既存構造の約60%を保存、主要資材を再利用することによって、エンボディドカーボン量の大幅な削減を実現



Hill Houseの全景（完成予想図）



Hill Houseのメインエントランス（完成予想図）

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

20

西村：

二つ目は Waterman Group Plc の業務の紹介でございます。

ロンドンにあります Hill House という 1970 年代に建設されましたコンクリート造りのビルを改築して、オフィス、小売店、テラスレストラン、文化イベントスペース等を提供するビルに改築しようということで、都会の森を模した 20 階建ての低層ビルにしようとしています。

炭素複合ビルに改築するプロジェクトということで、右側の完成予想図のような形のビルに改築していこうということでございます。

Waterman Group Plc では、低炭素スキーム、それから構造設計、土木設計などに関する多面的なサポートを実施するというような形で業務を行っているものでございます。

第62期（2024年）期末予想（連結・個別）



連結・個別ともに通期予想を上方修正

上半期受注高・売上高・営業利益は、ともに上半期の実績が予想を上回った
下半期は、計画どおりの進捗が想定されるため、上半期の好業績を踏まえ今回上方修正を発表

（単位：百万円）

項 目		第62期（2024年）				第61期（2023年）
		前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B - A)	増減率 (%)	実績（参考）
連 結	売上高	89,000	97,000	8,000	9.0%	93,057
	営業利益	8,400	9,600	1,200	14.3%	10,011
	営業利益率	9.4%	9.9%	+0.5pt	-	10.8%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	6,100	6,900	800	13.1%	7,534
個 別	売上高	56,000	59,000	3,000	5.4%	57,439
	営業利益	7,500	8,400	900	12.0%	8,563
	営業利益率	13.4%	14.2%	+0.8pt	-	14.9%
	当期純利益	5,700	6,500	800	14.0%	6,652

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

22

西村：

続いて期末予想の修正についてご説明いたします。

まず、連結・個別につきましては、連結では売上高が 970 億円、営業利益は 96 億円、営業利益率が 9.9%、当期純利益は 69 億円に修正させていただきました。

個別につきましては、売上高は 590 億円、営業利益は 84 億円、営業利益率は 14.2%、当期純利益は 65 億円ということになっております。

一番右側に前期 61 期の実績の数値を記載しておりますが、見ていただいた通り、売上高につきましては前期を上回る数値に修正しております。

営業利益等につきましては若干前期を下回る数値になっているということでございます。

第62期（2024年）期末予想（セグメント別）



国内・海外事業ともに通期予想を上方修正

（単位：百万円）

項 目		第62期（2024年）				第61期（2023年）
		前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B - A)	増減率 (%)	実績（参考）
国 内	売上高	63,000	66,000	3,000	4.8%	64,473
	営業利益	7,700	8,700	1,000	13.0%	8,943
	営業利益率	12.2%	13.2%	+1.0pt	-	13.9%
海 外	売上高	26,000	31,000	5,000	19.2%	28,583
	営業利益	700	900	200	28.6%	1,073
	営業利益率	2.7%	2.9%	+0.2pt	-	3.8%
合 計	売上高	89,000	97,000	8,000	9.0%	93,057
	営業利益	8,400	9,600	1,200	14.3%	10,011
	営業利益率	9.4%	9.9%	+0.5pt	-	10.8%

Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

23

西村：

続いて、これはセグメント別国内海外についてでございます。

国内海外ともに通期予想を上方修正させていただいております。

数値についてはご覧のとおりですが、売上高は前期を上回る一方、営業利益については前期を若干下回るというような形の上方修正をさせていただいております。

（参考）第62期（2024年）経営計画のポイント（第61期決算報告資料より）



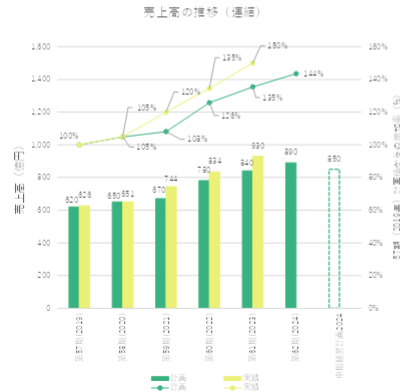
ポイント①：事業構造変革促進とミス防止

事業構造変革促進

- 国土交通省のシェア維持
- 地方自治体、民間双方の受注拡大
- サービス・分野拡大

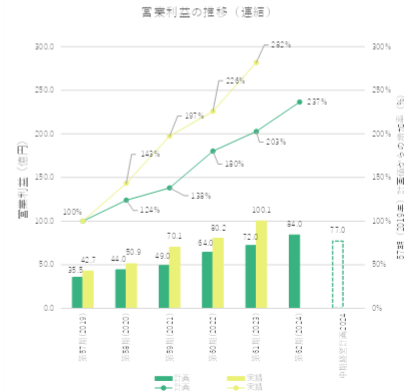
ミス防止

- 専任の照査担当者配置



ポイント②：投資強化

- 人材強化や育成、処遇改革等の人的資本への投資強化
- 技術競争力を強化するための、技術開発への投資強化
- 事業拡大、生産性向上に向けた研究開発投資の強化
- ミス防止のための投資強化



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

25

西村：

続いて、期末に向けた課題の進捗状況と今後の対応でございます。

62期の計画をご説明するときに経営計画のポイントとして二つ提示させていただきました。一つ目は事業構造変革の促進とミス防止、二つ目としては投資強化ということでございます。この二つのポイントについての進捗状況についてご説明いたします。

期末に向けた課題の進捗状況と今後の対応



	課題	進捗状況と今後の対応
1	事業構造変革の更なる促進とミス防止	【事業構造変革】 ・市場拡大：市区町村、民間が若干伸びているが、引き続き技術部門と営業部門の連携による受注拡大を図る ・サービス・分野拡大：前期に比べエネルギー、PPP、グリーンインフラ等が増加しているが、依然として不十分であり、更なる事業拡大を図る 【ミス防止】 ・照査専任組織の活用と照査・自己チェックを支援するツールの利用促進によりミスに起因するクレーム件数は前年同期比約5割減。 ・今後もプロジェクトマネジメントによる照査期間の確保や人員拡充により、確実に照査を実施
2	投資の強化	【積極的な採用】 ・事業拡大とワークシェアによる労働時間削減のための技術者増員を推進（2025年度新卒採用予定約100名、中途は前期・前々期を上回るペースで採用） 【計画的な育成】 ・新入社員を対象とした基礎技術研修を今期より実施、合わせてIPDシステムによる若手技術者の計画的な育成を継続 【多様な働き方の推進】 ・シニア技術者の処遇制度の見直しを実施、働き方の多様化、モチベーションの向上、労働力確保に期待 【生産性向上】 ・CTI版生成AI、設計業務ミス自動検知システムは今期末に完成予定、来期以降の生産性向上に期待 【競争力向上】 ・AI・IoT等のデジタル技術の開発等研究領域を拡大、将来性のある分野に積極的に投資を実施 【サステナブル投資】 ・総額13億円のうち3.5億円の投資を実施中、カーボンニュートラル貢献技術としてAIを用いたエネルギーマネジメントシステム（AI-EMS）を開発（4月に社外公表）

西村：

まず、事業構造変革の更なる促進とミス防止についてです。事業構造変革のところにつきましては先ほどご説明しました通り、市町村、民間につきましては受注は伸びておりますが、引き続き技術部門と営業部門との連携による受注拡大を図っていきたいと思っております。

それから、サービス分野の拡大ということでは、前期に比べエネルギー、それから PPP グリーンインフラというようなところが増加しておりますが、まだまだ十分とは思っておりませんので、更なる事業拡大を図っていききたいというふうに思います。

それからミス防止につきましては照査専任組織、これを構築しまして、しっかり調査、それから自己チェックを支援するツールを作ったということで、利用促進を図っております。

これによって前年に比べますとクレーム案件は5割に減少しているというような状況です。

今後もプロジェクトマネジメント、これをしっかり行って照査期間を確保するとともに、人員拡充により各事実調査を実施していききたいというふうに思っています。

続いて投資の強化というところで、まず採用につきましては引き続き採用をしっかり行いたいということで、現時点で来年度 2025 年度の新卒採用予定者については、約 100 名程度を確保いたしております。

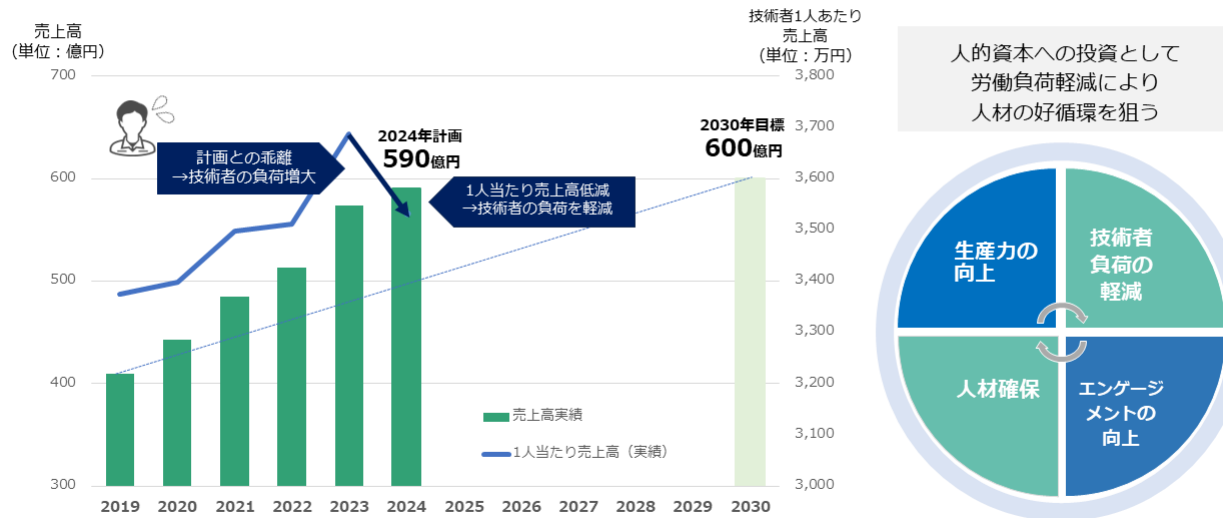
中途採用につきましては、前期を上回るペースで採用が進んでいるというような状況でございます。

それから育成につきましては、今期新たに基礎技術研修という研修を、新入社員を対象として実施しておりますし、IPD システムによる若手技術者の計画的育成を行っているということでございます。

生産性向上のところにつきましては、CTI 版生成 AI、それから設計業務のミス自動検知システム、これは今期末に完成予定をするという、ある程度目途がつきましたので、来期以降の生産向上に期待できるかなというふうに思っております。

それから競争力の向上につきましては AI、IoT 等のデジタル技術の開発研究領域を拡大すること、将来性のある分野に積極的に投資を実施していきたいなというふうに思っております。

前期までは計画を超過した売上高により、技術者負荷が増大
中長期的な人的資本の確保の第一ステップとして、1人あたり労働負荷軽減を狙い、修正計画においても1人当たり売上高は前年比減とした



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

27

西村：

それからこれは第1四半期の決算報告資料に記載したのですが、今回売上高の上方修正を行いましたので、590億円ということにしました。

1人当たりの売上高につきましては前期を下回った状況だということでございます。

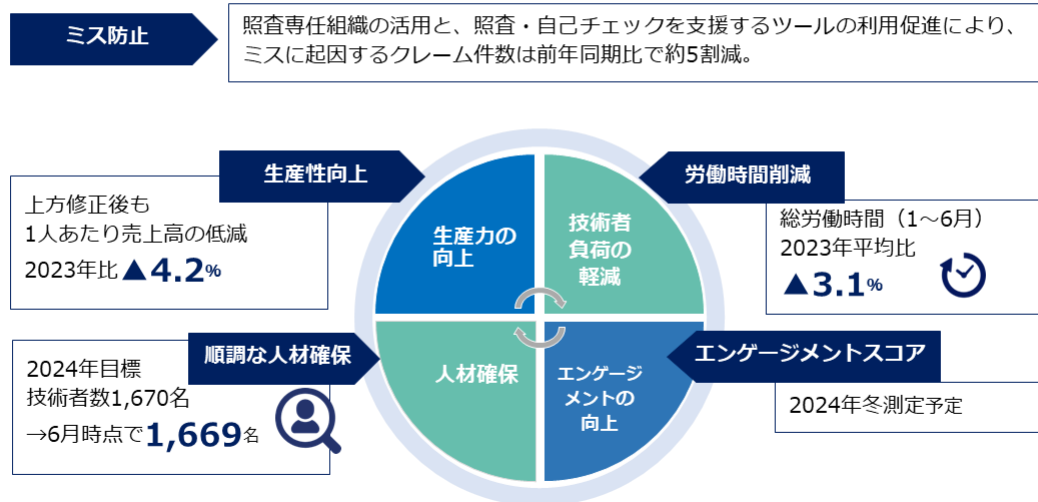
これの特に右側の人的資本を投資として労働負荷低減により人材の好循環を狙うという行為についての進捗状況は、この図の通りでございます。

当期経営計画のねらいと進捗（個別）



2024年期首計画：

①事業構造変革とミス防止 ②投資強化の2点をポイントとし、労働者負担軽減を狙って減収減益計画
1Qの順調な推移により、業績予想を上方修正 → 売上高↑ 労働時間↓



Copyright © 2024 CTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

28

西村：

株式会社建設技術研究所

まず生産性向上、これにつきましては売上高の低減を行うということで現在、2023年比で約マイナス4.2%、それから順調な人材確保というところにつきましては、現時点6月時点で1669名の技術者を確保しています。

目標が1670名でしたのでほぼ目標に達成しているということで引き続きこの辺は増やしたいなというふうに思っています。

それから労働時間の削減につきましては、6月末時点で前年の約マイナス3.1%ということで順調に長時間は減っているということでございます。

エンゲージメントスコアにつきましては、冬季に測定予定ということでございます。

不適切な原価管理に関する再発防止策への取り組み



「不適切な原価管理に関する調査報告書（社内調査委員会：2024年4月16日）」において提言された再発防止策について具体化し、2024年6月27日に「不適切な原価管理に関する再発防止策への取り組み」を開示いたしました。これら再発防止策の周知・徹底に努めてまいります。

	再発防止策	具体的内容
1	月報承認プロセスの強化に関する再発防止策	・月報入力システムへの日々入力の徹底 ・月報承認の際の確認事項の明確化 ・月報の承認・差戻しプロセスの見える化 ・月報承認者が部員全員の状況を確認できる仕組み構築 ・派遣社員における業務ごとの作業時間管理の徹底
2	実行予算承認・監視プロセスの強化	・業務ごとの原価発生状況のモニタリング ・原価管理基準超過理由書の改善 ・業務の原価発生状況の見える化
3	コンプライアンス教育	・各拠点事業所等及びグループ会社（9社）を含めた全従業員へのコンプライアンス研修の実施
4	不適切な原価管理を行わない企業文化の醸成	・代表取締役名での通達の発出（4/16付け） ・管理本部長通達の発出（5/30付け） ・原価管理の重要性についての継続的周知

全項目
について
運用開始

西村：

それから、不適切な原価管理が発生したということで2024年6月27日に不適切な原価管理に関する再発防止策への取り組みについて開示させていただきました。

再発防止策は4つございまして、具体的内容は右の通りでございます。

これらの全ての項目について現在運用開始しておりますので、引き続き、この具体的な内容が実際にできているかどうか、この辺についてしっかりモニタリングを図って周知徹底に努めてまいりたいというふうに思っております。

以上で説明を終わります。

ご清聴いただきありがとうございます。